

富良野や旭川に進出検討

ブレークアウト 無人ホテル展開

民泊運営を手掛けるブレークアウト（本社・札幌）は、道内で無人ホテルの展開に乗り出す。札幌市内に新築する1棟目を皮切りに富良野や旭川、ラビダス進出効果が



2月に着工した中央区南4条東1丁目のホテル建設地

期待される千歳などへの進出を検討。主軸の民泊戸建て住宅と合わせ、多様な宿泊ニーズに応える。

同社は2017年10月に設立。道内で無人型宿泊施設を運営し、管理件数は約400件に上る。

自社物件のほか、不動産オーナーの運営代行を受託。蓄積したデータに基づいて物件選定や収益の基準を明確化して企画提案し、件数を伸ばしてきた。今後は年間1500〜2000件ペースで増やし、30年までに1000

件を目標とする。

1棟目のホテル（RC造、地下1地上8階、延べ1320平方メートル）を中央区南4条東1丁目4の2に新築中。27年3月の完成と5月ごろの開業を目指す。

民泊運営で培ったノウハウを生かし、自社のブランド力強化を目的に新築を決めた。インバウンドが主なターゲットで、利用者全体の7割を想定。従来の民泊イメージを刷新する高級路線をコンセプトとする。札幌市内でラグジュアリーホテルブランドの参入が相次ぐ状況を踏まえ、富裕層向けの宿泊需要を取り込む狙いだ。

2棟目以降も視野に入れる。藤田龍之介代表取締役は「まずは札幌に注力しつつ、富良野や旭川など地方進出を検討した

い。30年までに自社保有の管理物件100件を目指す」と強調。今回のホテル運営を通じ、信用力向上につなげ、資金調達手段の多様化を図る考えだ。

宿泊施設の開発を希望する企業に向けたコンサルティングにも興味を示している。設計や収支計画の段階から関与し、運営を見据えた施設づくりの提案を目指す。

数百社規模の協組計画

東北アライアンス建設

東北6県の建設会社7社が共同出資する東北アライアンス建設（本社・福島県郡山市、TAC）

資材価格高騰といった課題を解決する。

は19日、建機メーカーなど異業種6社との戦略的パートナーシップ協定を締結した。数百社規模に及ぶ出資会社の協力会社で構成する「東北トラスティア事業協同組合」の創設も計画。人材・資材の調達力強化や新技術導入により、担い手不足や

TACとの連携協定を締結したのは①アイリスオーヤマ②EARTH BRAIN③小松製作所④フルテック⑤みずほリース⑥メタルワン。DX推進や資材物流の最適化、施工の効率化、金融スキーム活用に加えて共同開発・共同営業も想定している。今後参加希望があればパートナーシ